

ラオス国
森林戦略実施促進プロジェクト
(FSIP)
終了時評価報告書

平成22年8月
(2010年)

独立行政法人 国際協力機構
地球環境部

環境
JR
10-165

ラオス国
森林戦略実施促進プロジェクト
(FSIP)
終了時評価報告書

平成22年8月
(2010年)

独立行政法人 国際協力機構
地球環境部

序 文

独立行政法人国際協力機構は、スウェーデン国際開発援助庁（Sida）と共同で、技術協力プロジェクト「ラオス森林戦略実施促進プロジェクト（FSIP）」を2006年4月から4年6ヶ月間の計画で実施しています。

本プロジェクトの活動終了に先立ち、プロジェクトの成果を確認し、今後のプロジェクトに関する提言と教訓を得るべく、ラオス農林省林野局、Sida、及びJICA間で協議の結果、アメリカ人コンサルタントを雇用し、2010年4月17日から5月21日までの間、終了時評価調査を実施しました。

本報告書は、現地調査や協議の内容・結果をまとめたものであり、今後の協力事業の更なる発展の指針として広く活用されることを願うものです。

最後に、調査の実施にあたりご協力をいただいた内外の関係各位に対し、心より感謝の意を表します。

2010年8月

独立行政法人国際協力機構
地球環境部長 中川 聞夫

略語表

CliPAD	Lao-German Program on Climate Protection through Avoided Deforestation	森林減少の回避による気候変動防止プロジェクト
DOF	Department of Forestry	林野局
DOFI	Department of Forestry Inspection	森林監査局
DOP	Department of Planning	計画局
FCPF	Forest Carbon Partnership Facility	森林炭素パートナーシップ基金
FSIP	Forest Strategy 2020 Implementation Promotion Project	森林戦略実施促進プロジェクト
FSWG	Forestry Sub-Working Group	森林サブワーキンググループ
GTZ	Deutsche Gesellschaft für Technische Zusammenarbeit	ドイツ技術協力公社
IUCN	International Union for Conservation of Nature	国際自然保護連合
IT	Information Technology	情報技術
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人 国際協力機構
MAF	Ministry of Agriculture and Forestry	農林省
M/M	Minute of Meeting	協議議事録
MDG	Millennium Development Goal	ミレニアム開発目標
NAFES	National Agriculture and Forestry Extension Service	農林普及局
NAFRI	National Agriculture and Forestry Research Institute	農林研究所
NGO	Non Governmental Organization	非政府組織
NLMA	National Land Management Authority	国家土地管理庁
NTFP	Non-timber Forest Product	非木材森林産物
NUOL	National University of Laos	ラオス国立大学
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
PAREDD	Participatory Land and Forest Management Project for Reducing Deforestation	森林減少抑制のための参加型土地・森林管理プロジェクト
PCM	Project Cycle Management	プロジェクトサイクルマネジメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
R/D	Record of Discussion	討議議事録
REDD	Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation	森林減少・劣化の抑制等による温室効果ガス排出量の削減
SDC	Swiss Agency for Development and Cooperation	スイス開発協力庁

Sida	Swedish International Development Agency	スウェーデン国際開発協力庁
SUFORD	Sustainable Forestry and Rural Development Project	木材生産林管理支援プロジェクト
TFT	Tropical Forest Trust	熱帯林トラスト
TOR	Terms of Reference	業務指示書
WB	World Bank	世界銀行
WREA	Water Resource and Environment Authority	水資源環境庁
WWF	World Wide Fund for Nature	世界自然保護基金

目 次

序文

略語表

目次

第1章 終了時評価の概要.....	1
1.1 背景	1
1.2 調査の目的	1
1.3 評価実施者の構成.....	1
1.4 評価調査日程	2
1.5 対象プロジェクトの概要.....	2
1.6 終了時評価の手順と方法.....	2
第2章 終了時評価要約表.....	5

附属資料

附属資料1：6月4日（金）三者協議議事録	16
附属資料2：Project Design Matrix（PDM）	22
附属資料3：コンサルタント作成終了時評価調査報告書（Terminal Evaluation Study Report）	26
附属資料4：コンサルタント作成中間レビュー調査報告書（Mid-Term Review Study Report）	82
附属資料5：R/D（Record Of Discussion）	136
附属資料6：SA（Specific Agreement Between the Government of Sweden and the Government of LAO PDR）	148
附属資料7：プロジェクト実施にかかる三者協議議事録（M/M）	158
附属資料8：プロジェクトドキュメント.....	164

第1章 終了時評価の概要

1.1 背景

ラオス政府は経済社会環境面で極めて重要な役割を果たしている森林セクターについて、長期的な開発目標、政策及び重要な活動項目を明らかにする2020年森林戦略を策定した。

森林戦略は貧困削減への寄与を森林セクター開発の上位目標とし、直接目標として、1) 地域における生産体系の一環として健全で広範な森林の維持、2) 森林より得られる家計及び国家財政収入の安定的拡大、及び3) 生態系等環境保全機能の発揮、の3点を挙げ、146の活動項目を提示している。また、各活動項目の実施は基本的には関連機関が責任を持つものであるが、戦略の適格な実施を確保するため、期間を限って戦略実施体制を特別に設置し、戦略実施の促進・モニタリング等を行うこととしている。

2020年森林戦略の作成に支援を行ったJICA及びSidaは森林戦略実施促進を支援するためのプロジェクトを共同で実施することとし、2006年4月より2010年9月までを期間とする当該プロジェクトの実施について2006年5月にラオス政府農林省と合意した。

1.2 調査の目的

今回の調査では2010年10月のプロジェクト終了を前に、今までの協力実績及び実施のプロセスを確認し、JICA、Sida、及びラオス林野局（DOF）と共にプロジェクトの評価を行う。本調査の目的は、以下のようにまとめられる。

- (1) プロジェクト終了間際の成果、活動実績、投入実績、計画達成度をPDMや活動計画に基づき確認する。
- (2) 評価5項目の観点からプロジェクトを評価し、プロジェクト終了に向けた課題・懸念事項を明確化し、解決方法を検討する。
- (3) 次期プロジェクト（森林セクター能力強化プロジェクト）への留意点、教訓を導き出す。

1.3 評価実施者の構成

本終了時評価は、Sida、JICA、及びラオス側林野局と協議の上、中間レビュー調査を実施したアメリカ人コンサルタントDr. Paula J. Williams氏を雇用し評価報告書を作成し、同氏作成の報告書を元に、Sida、JICA、及びラオス側林野局が評価結果を承認するプロセスを取った。評価結果承認者は以下の通り。

氏名	職位
1) 米山 芳春	JICA ラオス事務所次長
2) Ms. Lisbet BOSTRAND	Sida 一等書記官
3) Dr. Silavanh SAVATHVONG	ラオス農林省林野局長

1.4 評価調査日程

コンサルによる調査期間：2010年4月17日（土）～5月21日（金）

評価結果承認日：2010年6月4日（金）

1.5 対象プロジェクトの概要

【プロジェクト目標】

森林戦略2020の初期5ヵ年の実施に関して、実施計画の策定とモニタリングの実施、関係機関との対話、重要政策関連活動項目に関する制度の提言を行うことにより、森林セクターの計画・管理能力が強化される。

【上位目標】

森林セクターにおける適切な計画・運営を通して、ラオス国における持続的かつ生産的な森林利用が促進される。

【成果】

成果1：森林セクター開発及び森林戦略実施促進における森林戦略事務局及び林野局計画課の管理、モニタリング、評価能力が改善される。

成果2：森林戦略実施及びセクター管理全体を強化するため、森林戦略2020の重要政策課題が支援される。

【活動】

活動1-1：森林戦略実施計画の策定

活動1-2：森林戦略2020実施のモニタリング、報告、及び評価

活動1-3：関係者協議

活動1-4：セクター管理に関する人材開発と研修

活動1-5：関連課題の地域内・国際ワークショップ・会合への参画

活動2-1：政策策定・情報公開

活動2-2：参加型土地・森林計画、分配、及び管理

活動2-3：森林活動による地域所得の向上に資する取組みの試験的实施

活動2-4：森林炭素取引、及びREDD活動の支援・調整

1.6 終了時評価の手順と方法

以下の手順で終了時評価調査を実施した。

	項目	調査手順
1	調査計画の作成	JICA、Sida、及びDOFが作成したTORに基づき、プロジェ

	4月19日(月)～21日(水)	クト関係者と協議の上、コンサルタントが終了時評価の詳細計画を作成した。
2	Start-Up 会合 (三者協議) 4月22日(木)	コンサルタントが作成した調査計画に基づき、JICA、Sida、及びDOFが内容を協議し、調査方針を決定した。
3	関係書類のレビュー 4月19日(月)～5月14日(金)	プロジェクトドキュメント、PDM、プロジェクト進捗報告書、プロジェクトの成果品、三者協議議事録、関連分野報告書等の関係書類をコンサルタントがレビューし、終了時評価にかかる情報を収集した。
4	関係者へのインタビュー 4月19日(月)～5月21日(金)	プロジェクト関係者(JICA、Sida、DOF)、ラオス関係者(DOP、DOFI、NAFRI、NAFES、NLMA、WREA、NUOL)、ドナー関係者(SDC、GTZ、WB、フィンランド)、関連プロジェクト関係者(SUFORD、ClipAD等)、NGO(IUCN、WWF等)、民間セクター(Lao Wood Processing Association等)へのインタビューをコンサルタントが行い、終了時評価にかかる情報を収集した。
5	関連会議への出席 4月23日(金)、26日(月) 5月14日(金)	プロジェクトに関係する参加型土地利用計画マニュアル開始セレモニー(4月23日)、REDDタスクフォース会合(4月26日)、森林サブワーキンググループ会合(5月14日)への参加を通じて、終了時評価にかかる情報を収集した。
6	現場視察 5月10日(月)	コンサルタントが、ルアンパバーンでのチーク認証パイロット活動(ゴック・ギウ村)を視察すると同時に、関係者への聞き取りを通じてパイロット事業の成果を確認した。
7	進捗会議(三者協議) 5月17日(月)	コンサルタントが作成した調査報告書(案)に基づき、JICA、Sida、及びDOFが内容を協議した。
8	JICA 本部への終了時評価 調査報告会(TV会議) 5月19日(水)	コンサルタントが作成した調査報告書(案)に基づき、日本での関係者(林野庁、JICA本部地球環境部)、及びラオスでの関係者(DOF、JICAラオス事務所、Sida)でTV会議により内容を協議した。
9	調査報告書作成 4月19日(月)～5月21日(金)	コンサルタントが上記3～6の調査結果、及び7～8のコメントを受けて、調査報告書を取りまとめた。
10	報告書承認(三者協議) 6月4日(金)	コンサルタントが9で作成した最終報告書に基づき、JICA、Sida、及びDOFが内容を協議し、報告書を承認した。

【評価の基準】

終了時評価は JICA のプロジェクト評価ガイドラインおよび 5 項目評価基準に沿って実施した。5 項目評価基準とは次のとおりである。

1) 妥当性

ラオス政府の開発方針および受益者のニーズとプロジェクト目標、上位目標が整合性を持っているかどうかを問う視点。

2) 有効性

プロジェクトに期待された便益が計画どおり達成されたかどうか。また、それらの便益はプロジェクトの結果としてもたらされたものかどうかを問う視点。

3) 効率性

実施過程における生産性を検証する。すなわち、プロジェクトの投入が効率的に成果に転換されたかどうかを問う視点。

4) インパクト

プロジェクトの実施により生じる直接的あるいは間接的、正あるいは負のインパクトインパクトを問う視点。上位目標への寄与についてのインパクトも含まれる。

5) 自立発展性

プロジェクトがラオス政府により継続して実施されるかどうか、またプロジェクトによって惹起された便益が国家政策、技術、制度、財務的な状況のもとで持続できるかどうか、を問う視点。

第2章 終了時評価要約表

1. 案件の概要	
国名：ラオス	案件名：森林戦略実施促進プロジェクト（FSIP）
分野：森林資源管理	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：ラオス事務所	協力金額（評価時点）：1.8億円
協力期間	(R/D): 2006年4月～2010年9月 (4.5年間)
	先方関係機関：農林省 林野局（MAF DOF）
	日本側協力機関：農林水産省林野庁
	他の関連協力：スウェーデン国際開発協力庁（Sida）
1-1 協力の背景と概要	
<p>2005年8月ラオス政府は森林の保全回復及び貧困削減への森林セクターの貢献を大きな目的とし、146項目の具体的な行動提案等からなる森林戦略2020を採択した。森林戦略の作成に支援を行ってきたJICA及びSidaは森林戦略の実施促進を支援するためのプロジェクトを共同で実施することとし、DOFをカウンターパート機関に2006年4月より2010年9月までの予定で開始された。本プロジェクトが終了半年前にあたるタイミングにて、プロジェクトの実施プロセス、具体的な成果及び今後の課題を客観的に評価・検証するため、本終了時評価が実施された。</p>	
1-2 協力内容	
(1) 上位目標	
森林セクターにおける適切な計画・運営を通して、ラオス国における持続的かつ生産的な森林利用が促進される。	
(2) プロジェクト目標	
森林戦略2020の初期5ヵ年の実施に関して、実施計画の策定とモニタリングの実施、関係機関との対話、重要政策関連活動項目に関する制度の提言を行うことにより、森林セクターの計画・管理能力が強化される。	
(3) 成果	
森林セクター開発及び森林戦略実施における森林戦略事務局及び林野局計画課の管理、モニタリング、評価能力が改善される。	
森林戦略実施及びセクター管理全体を強化するため、森林戦略2020の重要政策課題が支援される。	
(4) 投入（評価時点）	
（日本側）	
長期専門家：3名（108 M/M：プロジェクト終了時までの計画を含む）	
短期専門家：1名（0.5 M/M）	
本邦への研修員受入れ：6名	
機材供与：約7.4百万円	
ローカルコスト負担：約53.0百万円	

(Sida 側) ローカルコスト負担：約 110.4 百万円 (ラオス側) 人員配置 (カウンターパート 10 名配置) 土地・施設提供 (DOF 内の 2 室をプロジェクト事務所として提供) ローカルコスト負担：事務所の電気代と水道費	
2. 評価調査団の概要	
調査者	【評価結果承認者】 米山 芳春 JICA ラオス事務所次長 Ms. Lisbet BOSTRAND Sida 一等書記官 Dr. Silavanh SAWATHVONG ラオス農林省林野局長 【調査実施者】 Dr. Paula J. Williams 個人コンサルタント
調査期間	2010 年 4 月 17 日～5 月 21 日(現地調査期間) 評価種類：終了時評価
3. 評価結果の概要	
3-1 実績の確認 (1) 活動 DOF、JICA、及び Sida の各代表で構成される運営委員会は毎年 11 月頃に年間活動計画、年次に活動状況報告・活動計画見直し等を合意により決定する形態をとっている。この運営委員会の決定により、プロジェクトは極めて柔軟に運営され、当初の計画にあった活動を実施しなかったり、計画になかった活動を実施したりした。	
(2) 成果 成果 1：森林セクター開発及び森林戦略実施における森林戦略事務局及び林野局計画課の管理、モニタリング、評価能力が改善される。 6 つある指標のうち、1 つが概ね達成され、4 つが部分的達成、1 つが未達成であった。 森林戦略実施マトリックスの第一ドラフトは 2007 年 11 月の関係者協議で策定されたが、その後改訂されていない (未達成)。 森林セクター全体の進捗報告書は 2009 年 9 月の森林サブワーキンググループ (FSWG) 会合のために準備されたが、森林戦略実施については言及されていない。森林セクター動向モニタリングのための指標報告書は 2006 年に策定され、2007、2008、及び 2009 年にそれぞれ改訂されている (部分的達成)。 2006 年 7 月以降 9 回の FSWG が開催された。最初の 2 年は年 3～4 回開催されたが、過去 2 年は年に 1 度しか開催されていない (部分的達成)。 正式な形での関係者 (関係省庁、ドナー、NGO、民間セクター等) 協議は 2007 年 11 月に開催されたのみ。しかしながら REDD 等、様々な形での関係者協議は実施されている (部分的達成)。 地域内、国際ワークショップやセミナーへの参加を支援している。また、英語、IT、県職員に対する報告書作成の研修が提供されているが、指標やモニタリング開発に関する研修は実施されなかった (部分的達成)。	

森林セクターへの財政支援は2005年には全く無かったが、2010年にはREDD関連の支援を含め様々な財政支援が得られるようになってきている（概ね達成）。

成果2：森林戦略実施及びセクター管理全体を強化するため、森林戦略2020の重要政策課題が支援される。

5つの指標のうち、2つが概ね達成され、他の3つが部分的に達成されている。

2007年の改正森林法と野生生物法をはじめ、森林関連の法制度整備が支援された。また、2つの法令の印刷・配布がなされた（概ね達成）。

毎年、学童及び関係者に対して生物多様性保全に対する意識向上活動を実施した。植林の日（6月1日）と生物多様性保全の日（7月13日）に、小学校でキャンペーンを行い、ポスターやノートの配布を行った（部分的達成）。

テレビを通じて主要な課題の情報を発信した。森林戦略2020の実施、土地森林利用に関するビデオが作成され、チーク植林やラタン管理に関する情報が新聞で報道された（部分的達成）。

FSIPで開発・試行された幾つかの方策は、制度化されMAFに正式に承認されている。広がり始めているものには、参加型土地利用計画マニュアル、森林及び野生生物法の村落マニュアル等がある。小規模チーク認証や非木材林産物（NTFP）の村落による管理・販売の試行は継続中であり、まだ完了していない（部分的達成）。

FSIPは、FCPF（森林炭素パートナーシップ基金）のReadiness Planの企画・調整に多大の貢献をしてきた。REDDタスクフォースへの支援、REDDに関するセミナーの開催等を行い、他ドナーとの調整においても中心的な役割を担ってきた（概ね達成）。

（3）プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：森林戦略2020の初期5ヵ年の実施に関して、実施計画の策定とモニタリングの実施、関係機関との対話、重要政策関連活動項目に関する制度の提言を行うことにより、森林セクターの計画・管理能力が強化される。

2つの指標のうち、1つは概ね達成、1つは部分的に達成されている。

森林サブワーキンググループ、REDDタスクフォース、参加型土地森林利用計画マニュアルの開発、チーク認証等の活動で様々な関係者との協力関係が構築された。また、REDDを通じて多くの財政支援が行われるようになった。以上から組織的枠組みは強化されたといえる（部分的達成）。

2007年の改正森林法、野生生物法を中心とした関連法規の整備・普及、チークやNTFP管理といったパイロット事業の実施、REDDの調整等を通じて森林戦略実施が支援された（概ね達成）。

（4）上位目標の達成度

上位目標：森林セクターにおける適切な計画・運営を通して、ラオス国における持続的かつ生産的な森林利用が促進される。

3つの指標のうち、2つは達成される見込み。1つは情報が入手できない状況にある。

本プロジェクトは森林セクター全般に対する計画立案・運営能力強化を目的とし、プロジェクト実施を通じて森林セクターの適切な計画・運営枠組みが形成され、その枠組みを運営する能力が強化されたといえる。また、今後もラオスにおける森林セクターは重要であり、国内外からの投入は継

続すると考えられることから、森林セクターにおける計画運営枠組みが適切に機能していく可能性は高い（達成見込み）。

森林率は1992年の47.2%、2002年の41.5%に対し、2010年に暫定的に概算された値では40.6%となっており、森林の減少は軽減されているといえる（達成見込み）。

天然材木材付加価値の伸び率は現時点で情報未入手。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

本プロジェクトの妥当性は高いと判断される。

MAFの5ヵ年計画(2006-2010)では、重点項目として①食料安全保障、②商品作物栽培奨励、③焼畑安定化、及び④持続的森林管理、の4つをあげている。森林戦略2020は森林セクター管理に関する上位計画としてMAFが作成し政府の了承を得たものであり、その実施促進を目的とする本プロジェクトはODA事業として適格であり、ラオス政府の政策とも合致するものである。

対ラオス国別援助計画(2006年9月)において1つ目の援助目標として「『人間の安全保障』の視点から貧困削減を実践すべく、MDGs(ミレニアム開発目標)の達成に向けた着実な歩みを支援する」とあり、これに係る6つの重点分野の3点目として「農村地域開発及び持続的森林資源の活用」があげられ、4つの課題が示されている。本案件の森林戦略2020の実施促進は、4つの課題のうち「農業・森林保全分野の政策実施・制度構築」に直接貢献するものである。

また、本案件が実施した参加型土地利用計画マニュアル策定、小規模チーク認証事業、NTFP管理等の活動は、森林と深い関わりのある地域住民を直接対象にするものであり、地域住民の生計向上ひいては、貧困削減につながる活動である。

(2) 有効性

本プロジェクトの有効性は高いと判断される。

本プロジェクトは様々な関係者との協力関係の構築により森林戦略2020を効果的に促進する組織的枠組みが構築・運営され、関連法規の整備・普及、パイロット事業の実施、REDDの調整等幅広い森林戦略2020の実施を通して、プロジェクト目標である森林セクターの計画・管理能力の強化がある程度達成されたといえる。

成果1の林野局計画課のセクター管理能力改善、及び成果2の重要政策課題への対応ともにプロジェクト目標達成への貢献度は高かったといえる。特に成果2で行った森林に関する法制度整備及び普及、森林利用に関する権利関係の明確化及び周知、参加型土地・森林計画マニュアルの策定、植林等転換用荒廃森林調査手法の開発、小規模チーク認証等のパイロット事業の支援、REDDに関する事業の企画・調整は森林セクターの計画・管理能力の強化に大きく貢献した。

本プロジェクトは、柔軟かつ、プロセス重視で実施することにより、計画通りに実施されなかった活動もあるが、REDD等森林セクター喫緊の課題に対応することで、森林セクターの計画・管理能力の強化に貢献したといえる。

(3) 効率性

本プロジェクトの効率性は概ね高いと判断される。

本プロジェクトは森林戦略実施状況及びセクター動向のモニタリング結果等を関係者に提示・協議することなど限定された投入により森林戦略に定めた活動項目実施への関心・支援・投入を増大・調整しようというものであり、本来的に高い効率性を目的としている。

本プロジェクトは Sida と共同実施で行われ、JICA は長期・短期専門家派遣、資機材供与、本邦研修員受入と事業経費の一部支援、Sida はその他プロジェクト事業経費を負担した。専門家と本邦研修費を除いた JICA の投入は 60.4 百万円であり、Sida の投入は 110.4 百万円であった。共同実施により、我が国からの投入を大幅に削減することにつながった。

JICA のチーフアドバイザー及び Sida の担当職員は本プロジェクト開始前の森林戦略 2020 の策定からラオス林野局への支援に携わり、ラオス側から多大の信頼を得ている。長年にわたって築かれた三者の良好な関係が、プロジェクトの柔軟性を高める上で重要な要素になった。

当初の計画では、森林戦略事務局が森林戦略実施のモニタリングを実施することになっていたが、実際にはほとんど機能することがなかった。しかしながら、林野局計画課が中心となり各種調整・協調で積極的な役割を担った。林野局全体に人材が不足し、カウンターパートもプロジェクト業務だけでなく他の日常業務を抱えているため、幾つかの事業で遅れが見られた。

(4) インパクト

プロジェクト実施により以下のようなインパクトが認められ、3～5 年後に上位目標が達成される可能性は高い。

本プロジェクトは森林セクター全般に対する計画立案・運営能力強化を目的とし、プロジェクト実施を通じて森林セクターの適切な計画・運営枠組みが形成され、その枠組みを運営する能力が強化されたといえる。また、今後もラオスにおける森林セクターは重要であり、国内外からの投入は継続すると考えられることから、上位目標の発現が期待される。

森林率は 1992 年の 47.2%、2002 年の 41.5% に対し、2010 年に暫定的に概算された値では 40.6% となっており、森林の減少は軽減されているといえる。以上から上位目標である持続的生産的な森林利用が促進されていく可能性は高い。

本プロジェクトは政策レベルでの活動を主体としているが、森林戦略 2020 は貧困削減の観点から提示されているものであり、間接的に森林に依存する地域住民、特に貧困層に対し生計向上等のインパクトを有する。特にルアンパバーン県の小規模チーク認証パイロット事業では、チーク販売による参加農民の収入が格段に増加し、隣村の地域住民も多大の関心を持っている。現在、他村への活動の拡大が検討されている。

(5) 自立発展性

プロジェクトの自立発展性は、概ね高いと判断されるが、自立発展性を確保するための方策についてさらなる検討が必要である。

本プロジェクトが支援したセクター全体を視野に入れたセクターモニタリング・管理及び政策・制度の検討・立案等はプロジェクト終了後も政府職員が通常業務の中において行っていくものである。したがって、本プロジェクトを通じて強化された組織・人的能力はプロジェクト終了後も維持・発展するものと考えられる。

慢性的な資金不足を解決するための継続的な努力は必要とされる。セクター全体の資金問題を解

決するために森林法で森林開発基金についての記述があるが、現時点で森林開発基金が十分な資金を確保しているとは言いがたい。

プロジェクトでは参加型土地利用計画マニュアルを始め、多くの手法、アプローチ、マニュアル等を開発してきたが、慢性的な予算不足のため、それらの活用はドナーの資金、及び限られた政府予算の中での活用とならざるを得ない。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

- 本プロジェクトは林野局、JICA、Sida の共同実施プロジェクトであり、通常の JICA プロジェクトの JCC の代わりに三者会議が定期的で開催され、柔軟性の高い意思決定がなされた。
- Sida との共同実施について、JICA の専門家派遣と機材、在外事業強化費に加えて、林野局による Sida 資金の柔軟な活用によって実施されてきたことが、臨機応変な対応が必要な本プロジェクトの円滑な実施を可能にした。

(2) 実施プロセスに関すること

- 本プロジェクトは林野局長より、林野局の中心的プロジェクトとして位置付けられ、林野局の高いオーナーシップのもとに、プロジェクトが運営された。
- SDC、GTZ、SUFORD、CliPAD、TFT、WWF 等他ドナー、プロジェクト、NGO との資金面だけでなく、活動管理における協調により、様々な活動が実施された。これらの協力が、小額の予算及び限られた人材の中で、様々な活動を実施できた要因の一つとなった。
- 専門家が林野局の意思決定を担当する責任者と日々接して業務を進めてこられた背景には、チーフアドバイザーが長年のラオスでの経験を持ち、林野局、Sida 双方から信頼を得ていたこと、及びチーフアドバイザーと専門家間の意思疎通、信頼関係などプロジェクトを実施するために十分な体制が構築されていたことが重要な要因として考えられる。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

- 森林戦略 2020 の実施が、どのように政府の 5 ヶ年及び年度計画策定、予算配分、事業実施と関わるのか事前に十分に検討する必要があった。
- 森林戦略 2020 自体が、新たな政策・課題、組織改変等によりセクター全体の運営が変わらざるを得ないことを予期することが出来なかった。
- プロジェクトは、林野局、NAFRI、NUOL、NAFES、及び NLMA の上級職員から構成される森林戦略事務局の大きな関与を想定していたが、これらメンバーが日常業務で多忙であったことから、本事務局が十分に機能できなかった。
- 計画されていた一部の活動は実施されず、一部の活動は遅れが見られた。特にプロジェクト前半では野心的な部分が多く、活動があまりにも多すぎた。プロジェクト後半に向けて、いくつかの活動は削除したが、林野局の当初の要請に対して、十分に内容を検討できていなかった部分があった。

(2) 実施プロセスに関すること

- Sida 資金の受け取りが遅れることがあり、一部の活動実施が遅れる要員となった。Sida 資金は、ラオスの財務省が受け取った後、林野局の銀行口座に転送されるシステムになっていたが、財務省及び林野局の会計報告書のやり取りの問題等から手続きが遅れることが頻発した。

3-5 結論

FSIP は、林野局長及び林野局内で政策立案の中止的な役割を担当する林野局計画課長、スタッフをカウンターパートとして、森林戦略 2020 の目標達成に関する施策実施、5 ヶ年計画の立案、実施、評価等に関する幅広い支援を実施するとともに、REDD 等国際社会で議論が進められている新たな森林政策等の課題等についても柔軟な対応を行ってきており、林野局、他のドナー等から高く評価されている。

また、そのような中で共同実施機関である Sida をはじめとして、森林分野で協力プロジェクトを実施している GTZ (ClipPAD)、世界銀行+フィンランド (SUFORD) 等とも連携し、政府の FSWG (森林サブワーキンググループ)、REDD タスクフォース等における調整の中心的役割を果たしてきている。

林野局の組織は、森林監査局等の新設で職員数が減少しており、森林戦略、5 ヶ年計画の実施に加えて、新たな課題である REDD 等への取組みを行うためには、本局職員の政策立案、実施に必要な PCM 手法や語学力、リモートセンシングに関する知識等を含めた基礎的能力の向上、地方の関係職員における政策課題の調査分析能力の向上が課題となっており、プロジェクトによる OJT と必要な集合・派遣研修の組み合わせによる支援を継続する必要がある。

また、FSIP の専門家は本来のプロジェクト活動のほか、PAREDD、環境プログラム無償、2009 年度二次補正 (気候変動対策緊急支援) によるノンプログラム無償など JICA 及び日本政府が行う森林分野の協力に関して、企画、立案、実施への様々な支援を実施してきている。

3-6 提言 (当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言)

次期プロジェクトに向けた対応 (プロジェクトへの提言)

次期プロジェクト (森林セクター能力強化プロジェクト) は 2010 年 10 月から開始予定である。次期プロジェクトで全ての活動が自動的に継続することを期待するのではなく、可能な限り本プロジェクト実施期間にある程度の区切りをつけるべき。ただし、長期的な支援が必要な活動については、他資金源の活用を検討した後、最終的に次期プロジェクトでの支援を検討すべき。

プロジェクト文書の整理 (プロジェクトへの提言)

プロジェクトに関する基本文書 (R/D、三者合意文書、プロジェクトドキュメント、中間レビュー報告書等) を整理し、プロジェクト完了報告書には膨大なプロジェクト成果をリスト化し、重要なプロセスとともに記録に残しておくことが望まれる。

次期プロジェクトに向けた提言

- 次期プロジェクト開始後の 2010 年 10~12 月は、プロジェクトの詳細計画を策定する時期として位置づけるべき。
- 次期プロジェクトの内容を精査し、「REDD 調整への支援」、あるいは「林野局職員の能力強化」等プロジェクトの焦点を絞るべき。

- 支援の形態は、①JICA 単独支援、②JICA+他ドナーとの共同実施、③JICA+複数ドナーによるバスケットファンドの3パターンが考えられる。
- Sida に代わる共同実施ドナーが確定していない中、次期プロジェクトについては柔軟性を持たせた設計が望まれる。JICA が支援すべき活動は何か、他ドナーが支援すべき活動は何かを明確にしておく必要がある。

3-7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

森林戦略の日常業務へのリンク

本プロジェクトは実施計画の準備、重要政策関連活動の支援、実施モニタリング等を通じた長期戦略の実施促進に焦点をあてている。しかしながら、森林戦略実施促進は国家社会計画やセクター5ヵ年計画に基づき年度計画や予算が策定される政府の通常の計画システムと必ずしもリンクしていない。森林戦略が長期的なビジョンを提供しても、それを日常業務計画に結びつけることは簡単ではなかった。

長期的戦略改訂の必要性

土地問題、政策・戦略の変更、組織改変、気候変動、森林炭素、REDD 等新たな状況への対応の必要性から森林戦略自体が次第に時代に適合しなくなりつつある。これは長期的戦略においては常に直面する問題である。状況に応じて戦略の定期的な改訂も検討しなければならない。

森林戦略事務局の形骸化

プロジェクトでは森林戦略事務局がセクター業務の進捗と実施をモニタリングすることになっていたが、事務局のメンバーが日常業務を数多くかかえ、新たな追加的業務を実施する余裕がなかったことにより、事務局はほとんど機能しなかった。そのため、林野局計画課長が当初事務局に期待されていた役割を実質的に担うことになった。

森林サブワーキンググループ（FSWG）の役割の明確化

FSWG はドナー会合の場として、農業・農村開発ワーキング・グループ下の5つのサブワーキンググループの一つとして位置づけられている。プロジェクトはFSWG の事務局の役割を担っているが、より効果的にセクター支援を行うために、FSWG の役割を明確にする必要があるとプロジェクト及び林野局から認識されている。

3-8 フォローアップ状況

該当なし

附属資料

附属資料 1 : 6月4日(金)三者協議議事録

附属資料 2 : Project Design Matrix (PDM)

附属資料 3 : コンサルタント作成終了時評価調査報告書 (Terminal Evaluation Study Report)

附属資料 4 : コンサルタント作成中間レビュー調査報告書 (Mid-Term Review Study Report)

附属資料 5 : R/D (Record Of Discussion)

附属資料 6 : SA (Specific Agreement Between the Government of Sweden and the Government of LAO
PDR)

附属資料 7 : プロジェクト実施にかかる三者協議議事録 (M/M)

附属資料 8 : プロジェクトドキュメント

Agreed Minutes of FSIP Tripartite Steering Committee Meeting on Semi-Annual Review/Planning on Jun 4, 2010

1. Introduction

The Ministry of Agriculture and Forestry (MAF) represented by Department of Forestry (DOF), JICA Laos Office (JICA) and the Swedish Office for Development Cooperation in Vientiane (Sida) organized the Tripartite Steering Committee Meeting for Semi-Annual Review/Planning of the Forestry Strategy Implementation Promotion Project (FSIP) in Vientiane on Jun 4, 2010 with the main objectives to review the implementation of the FSIP Annual Work Plan for 2009/10 (AWP 09/10), to discuss and agree on activities and budget for the remaining period of FSIP until end Sep, final evaluation results, procedures for project termination and other matters. Drafts of Progress Report on Implementation of AWP 09/10 with reports of several activities and a revised AWP 09/10 were sent to the donors on May 28 2010 (Meeting program in Annex 1)

DOF delegation was headed by Dr. Silavanh SAWATHVONG, Director General, Sida by Ms. Lisbet Bostrand, Deputy Head, Swedish Office for Development Cooperation, Vientiane and JICA by Mr. Yoshiharu Yoneyama, Senior Representative, JICA Laos Office. Representatives from concerned Divisions of DOF, Faculty of Forestry, NUOL and the National Agriculture and Forestry Extension Service (NAFES) also attended the meeting. (List of participants in Annex 1)

Main issues discussed and salient points agreed are as follows and the agreed actions to be taken by Parties are listed with indication of timing in Annex 2;

2. Opening

DG, DOF, opened the meeting with the following remarks;

- Formulation of the 7th National Socio-Economic Development Plan (NSEDP) has been going on by incorporating the Millennium Development Goals. Many comments were provided by donors notably UNDP and EU, and the draft has been re-consulted within GOL. As for the forestry, REDD+ is now in the next 5 year plan and the National Climate Change Strategy recognizes REDD+ as an important mitigation measure.
- There will be a meeting on a draft national land management plan proposed by NLMA between the National Assembly's Standing Committee members and GOL on Jun 9th 2010. The proposed plan identifies 1 million ha for Production Forests, 8 million ha for Conservation Forests and 5 million ha for Protection Forests. These figures are different from the actual figures, which are already gazetted or being gazetted by PM Decrees based on MAF/DOF survey and proposal.
- The REDD+ Partnership was established at the Oslo Conference last week, which was attended by 55 countries including MAF Minister and DGs of DOF and DOP of Lao PDR. The total amount of financial support for the period 2010-2012 is now \$ 4 billion and the Partnership is expected to expedite efficient and effective use of the pledged fund. The Board is chaired by Norway and the Partnership meetings will be co-chaired by Japan and PNG with France and Brazil as deputy co-chairs.

3. Technical level meeting

1) Progress report for 09/10

After introduction of the draft progress report by DOF and presentation of the preliminary results of the quick forest cover assessment and TV program on FS 2020 and forest sector development, the Parties discussed the report and salient points are as follows;

7th NSEDP

Sida asked about the process of NSEDP formulation and involvement of development partners.

DOF replied that MPI received comments from UNDP and EU. DOF and other departments of MAF also saw some gaps in the executive summary with their own plans and sent comments to MPI through MAF. MAF new plan has now 7 programs instead of the four in the current one. One of the new programs is concerning climate change and forest carbon. One of the features of new plan is to stress Districts and Cluster-villages as implementation agencies with allocation of adequate budget. There will be a national meeting on MAF draft in late Jun.

Sida stressed importance of consultations with development partners and regretted that FSWG was little involved in the process.

DOF stated that the executive summary was introduced at the last FSWG meeting and members were requested to send comments to DOF, but there was no comment.

Sida stated that the executive summary was introduced to FSWG members very late and the forest draft was not consulted at all and requested that a summary of forestry plan be circulated to FSWG members, if time allows.

DOF replied that MAF still welcomes comments and inputs from development partners and DOF will consider Sida's request as much as possible.

FSWG

Sida expressed its intention to step down as co-chair of FSWG.

DOF requested a letter of such intention from Sida to DOF and DOF will consult with JICA concerning possibility of replacing Sida as FSWG co-chair.

2) Revised AWP for 09/10

After introduction of proposed revision of AWP 09/10, the Parties discussed various issues and salient points are as follows;

Sida raised concern about some activities and budget proposed in a draft revised AWP as follows;

- 1) Taking into account little involvement of development partners or FSWG in the formulation of the new forestry 5 year plan, the budget for the National Agriculture and Forestry Conference should be reviewed for substantial reduction or total deletion.
- 2) Concerning international consultant for needs assessment of sector planning capacity

development and preparation of post-FSIP project document, two factors should be taken into account; one is different expertise required for the two tasks and the same consultant may not be qualified for the two tasks, another is that the contracting works should be done by DOF since there will be no Sida office after Jul 9th and it's impossible to do this from Stockholm.

- 3) Cancellation of training activities such as 1.4.4 and 1.4.5 should be reviewed.
- 4) Participatory forest rehabilitation is to be financed by FDF. How much will it be?
- 5) In view of only 4 months of the project remaining period, the procurement of vehicle should be cancelled.
- 6) How much cash is remaining in Laos?

DOF replied as follows;

- DOF will carefully consider 1), 2) and 3) above and respond very soon.
- Concerning 4), DOF will provide estimate as soon as possible.
- Concerning 5), the procurement contract has been already made and only tax exemption is in process. The post-FSIP will continue to support sector planning capacity building including REDD+ and it is sure that the vehicle is necessary for this work even after FSIP termination.
- The remaining cash is around \$41,600 (around \$26,600 at BCEL and \$15,000 at BOL)

NUOL informed that the training of Provincial staff will be in Houaphan not in Phongsaly due to access in the rainy season.

NAFES requested that \$3,000 be provided for training material development because a plan is already in place.

Administration Division requested that \$3,000 be provided for upgrading of personnel management system because the Personnel Department of MAF has already installed a new system and DOF needs to upgrade its system in line with the new MAF system.

Sida stressed that the revised AWP should be realistic and implementable within the coming four months and Sida will only disburse for the activities, which it considers realistic. It also stressed that the final disbursement will be communicated to Stockholm by Jun 10 (Thu), therefore a revised AWP should be agreed upon by Jun 9 (Wed) together with the agreed minutes.

DOF concluded that the proposed revised AWP will be reviewed and re-revised taking into account the views expressed by Sida and some implementing organizations. Final version together with the agreed minutes will be agreed upon by Jun 9th.

4. Policy level meeting

1) Final Evaluation and Post-FSIP

JICA stated that the evaluation report was accepted and endorsed by JICA and there were a couple of lessons as follows; one is difficulty of evaluation of policy or sector planning support project like FSIP and there are few quantitative indicators for evaluation, and second is that the post-FSIP is to be similar to FSIP, therefore the project design matrix or log frame needs to be carefully formulated.

DOF stated that the two possible directions of post-FSIP proposed by Dr. Paula, which are sector coordination and capacity building, should be combined in the next phase because they are closely related. Dr. Paula also proposed three financing options e.g. JICA only, JICA plus Finland and JICA plus basket funding from multi-donors and we need to explore the second and third options.

JICA introduced the two members of Detailed Planning Mission for post-FSIP and stated that JICA intends to start post-FSIP on Oct 1st immediately after FSIP termination, therefore the first year or so will be only JICA financing while JICA and DOF look for a new partner or a basket funding. So, the project design or activities will have two components e.g. one (core part) for JICA and another for a new partner or basket funding. It also stated that there are several JICA and Japan supported projects including post-FSIP, PAREDD and two grant programs for forestry and requested DOF for efficient coordination of these projects and programs

DOF agreed with the JICA proposal and request.

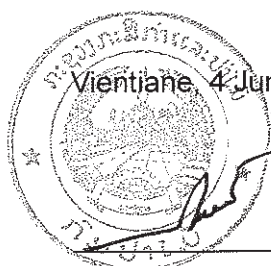
2) Process for Project Termination

Three Parties agreed that a draft project completion report be prepared for submission by end Jul, a final FSIP Tripartite Steering Committee be held on Aug 17th and a completion report be finalized according to comments made in the meeting.

3) Others

Sida informed that all projects of EU and EU countries will use GOL rates for DSA and so on starting from Jul 1st for new projects and Oct 1st for ongoing ones.

DOF concluded that FSIP should make good achievements until its end and the concerned parties should work together for formulation of post-FSIP.


Vientiane, 4 Jun 2010

Dr. Silavanh SAWATHVONG
Director General
Department of Forestry



Ms. Lisbet BOSTRAND
Deputy Head of Swedish
Office for Development
Cooperation, Vientiane, Laos


Yoneyama

Mr. Yoshiharu YONEYAMA
Senior Representative
JICA Laos Office

Annex1

**Tripartite Steering Committee Meeting on
Semi-Annual Review of FSIP Work Plan 09/10**

- 1. Time:** Jun 4th 2010, 09:00 – 12:00 AM
2. Venue: Meeting Room on 2nd Floor Main Building, Department of Forestry
3. Chair: Dr. Silavanh SAWATHVONG, DG, DOF

4. Participants

DOF

Policy Level Meeting;

Dr. Silavanh

Mr. Oupakone, Director, Planning Division, DOF

Technical Level Meeting;

Dr. Silavanh

Mr. Oupakone

Mr. Songvan, Director, Administrative Division, DOF

Mr. Oudom, Deputy Director, Protection Forest Division, DOF

Mr. Phoukong, Forest Inventory and Planning Division, DOF

Mr. Boualy, Director, Shifting Cultivation Division, NAFES

Mr. Khamiar, Acting Vice Dean, Faculty of Forestry, NUOL

JICA: Mr. Yoshiharu YONEYAMA, Senior Representative, JICA Laos Office

Mr. Moriaki WATANABE, Project Formulation Advisor, JICA Laos Office

Mr. Viengsavanh SISOMBATH, Program Officer, JICA Laos Office

Mr. Kazuyuki MORITA, Post-FSIP Mission member

Ms. Naomi IMASE, Post-FSIP Mission member

Sida: Ms. Lisbet Bostrand; Deputy Head, Sida, Vientiane

FSIP: Mr. Noriyoshi Kitamura, Chief Adviser

Ms. Noriko Ishitobi, Adviser

5. Agenda

09:00 – 09:10; Opening by Chair

09:10 – 10:45; Technical level meeting

1. Progress in Implementation of AWP 09/10

1) Quick Forest Cover Assessment (short presentation)

2) TV Program on Forestry (short presentation)

3) GOL 5 Year Plan

4) FSWG

5) Others

2. Revised AWP for 09/10

11:00 – 11:50; Policy level meeting

1. Evaluation

2. Process of project termination; Completion report, Final disbursement, Final TSC, etc.

3. Post-FSIP

4. Others

11:50 – 12:00; Summary by Chair

Agreed Actions

Agreed Action	Responsible Organization	Timeframe
<u>7th NSEDP</u> - Summary of forestry plan will be circulated to FSWG members for comments, if time allows.	DOF	As soon as possible
<u>Work Plan for 09/10</u> 1) Paying attention to realistic activities and budgets, which can be implemented within the limited remaining period, review and revision, if necessary, of the proposed revised AWP with focus on the following; <ul style="list-style-type: none"> - Budget for the National Agriculture and Forestry Conference from the point of view of limited consultation with stakeholders. - Some capacity development activities proposed to cancel - Vehicle procurement - International consultant for needs assessment of planning capacity development and preparation of project document for the post-FSIP project from the point of view of different expertise required for the two tasks. Contracting with DOF would be another issue to be considered. - Others as necessary 2) Estimate of FDF budget to be used for Activity 2.2.2 will be provided with donors	DOF	By Jun 9 2010
<u>Project Completion Report</u> 1) Submission of draft Project Completion Report 2) Submission of final Project Completion Report	DOF DOF	By end July 2010 By end Sep 2010
<u>Final Tripartite Steering Committee Meeting</u>	Three Parties	Aug 17 2010
<u>Co-chair of FSWG</u> 1) Letter from Soda to DOF expressing intention to step down as co-chair of FSWG 2) Letter from DOF to JICA concerning JICA's intention to replace Sida as co-chair of FSWG	Sida DOF	As soon as possible

Narrative Summary/Statements	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p><u>Super goal</u> Forestry sector's contribution to socio-economic development, and especially poverty eradication, and environmental conservation in Lao PDR is promoted on a long term basis through facilitating FS 2020 implementation, and sound and efficient management of the Lao forestry sector.</p>	<p>Poverty rate in districts with high forest cover declines progressively over time.</p>	<p>LECS 6 for 2017/18</p>	
<p><u>Overall Goal/Development Objective</u> Sustainable and productive forest use in Lao PDR through appropriate sector planning and management is promoted.</p>	<p>Institutional framework for sector planning and management is effective at mobilizing and coordinating all stakeholder inputs to support the entire forest sector and comprehensive FS implementation. Rate (ha./yr.) forest loss/degradation between Year 2002 and 2012 is smaller than that of between Year 1992 and 2002. Value-added per m3 of log from natural forest increases with a rate higher than GDP/capita increase.</p>	<p>Annual FS implementation matrix and forest sector development reports. Land use, forest cover and carbon survey in 2010. Forestry sector GDP/Log production.</p>	<p>Sustainable forest management is linked to not only adequate generation of income from the forest sector and other sources to cover management costs, but sharing of such revenues – or investment – for rural poor who assist with forest protection and management, and for adequate investment in environmental conservation of all three types of forest.</p>
<p><u>Project Purpose/Project Objective</u> Capacity of forestry sector on planning and management is developed through formulation and monitoring of implementation plans, dialogues with stakeholders and addressing policy related priority actions for the initial five year period of FS 2020 implementation.</p>	<p>An institutional framework to promote effective inputs to FS 2020 implementation by stakeholders is established and operational, by:</p> <ul style="list-style-type: none"> • developing the collaborative relationships among different relevant stakeholders; • providing more comprehensive information and monitoring on forest sector collaboration, issues and developments; and • mobilizing more financial resources to support forest sector development. 	<p>- FSIP Annual Reports - Annual FS Implementation Matrix - Annual Analytical Report on Forest Sector Indicators - Annual Forest Sector Development Report - Information on ODA support for forest sector - Activities taken for public support - New initiatives tested and in place</p>	<p>1. Support to FS 2020 implementation continues both nationally and internationally 2. Off-farm job opportunities are created in upland areas in commensurate with population increase</p>

<p>Output</p> <p>1. Improved capacity of FS Secretariat and Div. of Planning, DOF to plan, manage, monitor and evaluate forest sector development and implementation of the Forestry Strategy.</p>	<p>FS implementation is supported through:</p> <ul style="list-style-type: none"> • policy and legislative framework, • broad public understanding and support, • pilot efforts to increase rural smallholder and community incomes from forestry, and • coordination of efforts to respond to climate change, through Reduced Emissions from Deforestation and Forest Degradation initiatives. 	<p>for increased income from forests of rural people</p> <ul style="list-style-type: none"> - REDD initiatives with R-Plan in focus are implemented in a coordinated way 	<p>3. Infrastructure and social service are developed and expanded in upland area</p>
<p>2. Key selected strategic priorities in the FS 2020 are supported, which further strengthen overall Forestry Strategy implementation and sector management.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Annual update on FS implementation matrix discussed with implementation partners and finalized by FS Secretariat by early October of each year. 2. Annual report on overall sector development – including FS implementation and updated analytical report on sector indicators-- ready by early October of each year. 3. Regular (3-4 per year) meetings with Forestry Sub-Working Group. 4. Annual Dialogue with FS stakeholders held in October (or November) of each year. 5. Training, workshops, study tours, and/or seminars (measured by participant person-days) related to: (i) improving sector management, including development and deployment of indicators and monitoring systems; and/or (ii) strategic FS 2020 priorities being support by FSIP. 6. Increased financial support for forest sector secured by 2010 as compared with 2005 	<p>FSIP Annual Reports</p> <p>Annual FS implementation matrix</p> <p>Annual Forest Sector Development Report</p> <p>Forest Sector Indicators</p>	<p>Stakeholders – including Ministries, donors, NGOs and private sector increase or realign their inputs to implement FS Priority Actions.</p>
<p>2. Key selected strategic priorities in the FS 2020 are supported, which further strengthen overall Forestry Strategy implementation and sector management.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Support to policy formulation, information and dissemination (number of new policies/legislation, consultations, etc. supported by FSIP). 2. Number of awareness-raising sessions conducted. 3. Information on key sector issues provided by mass media, i.e., number of TV emissions, newspaper articles, etc. 4. Number of key methods developed and piloted by FSIP, which have broad potential replicability, institutionalized and approved by MAF and broader-scale implementation started, e.g., Participatory Land and Forest Use Planning and Allocation, smallholder forest certification, village-based quota for NTFP management, etc. 5. Development and coordinated implementation of FCPF Readiness Plan for Lao PDR and other REDD related activities 	<p>FSIP Annual Reports</p> <p>Forest Sector Information Strategy document</p> <p>MAF official decisions</p> <p>Certification of smallholder teak plantations</p> <p>Readiness Plan developed and approved for implementation by FCPF</p> <p>Number of REDD related activities and projects including demonstration activities coordinated by FSIP</p>	

Narrative Summary	Inputs	Important Assumptions
<p><u>FSIP Activities</u> <u>Component 1: Strengthening Sector Management.</u> 1.1. Planning FS Implementation Matrix: Forest Strategy implementation matrix updated each year, to complement other work plans made by MAF, DOF, FRDF, other projects, etc. 1.2. Monitoring, Reporting and Assessment for FS 2020 Implementation: yearly reports on forestry indicators and forest sector development including FS 2020 implementation produced each year 1.3. Stakeholder consultations: Regular consultations with Forestry Sub-Working Group members and annual dialogues with FS stakeholders. 1.4. Human resource development and training related to sector management: training 1.5. Participation in regional and international workshops and meetings on relevant topics; ASEAN forestry related workshops, REDD negotiations and workshops, etc.</p> <p><u>Component 2: Supporting Strategic FS Priorities.</u> 2.1. Policy Formulation, Information and Dissemination: 2.1.1. Formulation of key sector policies and legal documents. 2.1.2. Sector information dissemination: dissemination of sector information including legal documents and information and awareness-raising 2.2. Participatory Land and Forest Use Planning, Allocation and Management 2.2.1. Participatory land use planning and forest and land allocation 2.2.2. Participatory restoration of degraded forest areas 2.3. Piloting approaches in increasing rural incomes from forestry activities. 2.3.1. Teak plantation management 2.3.2. Small holder teak plantation certification 2.3.3. Pilot of village level NTFP quota system based on resource assessment and management 2.4. Support to, and coordination of, Forest Carbon Trading and REDD activities. 2.4.1. Application to the initial grant for preparation of Readiness Plan and R-Plan preparation 2.4.2. Consultation and coordination with various partner REDD initiatives.</p> <p><u>Component 3: Project Management</u></p>	<p><u>Inputs</u> <u>Government of Japan</u> 1) Long-term Experts Chief Adviser Adviser 2) Machinery and equipment Vehicles, equipment and stationery for the project office 3) Others Some other project activities Budget for maintenance of the project office including some local staff <u>Government of Sweden</u> Budget for many project activities including some local project staff. <u>Government of LAO PDR</u> 1) Project Personnel Project Director; Director General, Dept. of Forestry, MAF Project Manager; Head, Division of Planning and Policy, DOF, MAF Project Counterparts; Steering Committee Members, FS Secretariat * All project personnel will hold their own office concurrently. 2) Project Office Project office will be provided in the DOF premise. 3) Local expenses Utility costs of the project office and so on.</p>	<p>DOF Planning Division and FS Secretariat provide adequate and timely inputs into work needed for oversight of FS implementation.</p> <p>There exist groups and/or associations of stakeholders well representing the whole forestry sector, which can provide information and data in full and in a timely manner for monitoring.</p> <p>Organizations and agencies responsible for addressing selected FS priority actions commit themselves to doing so in a timely manner.</p> <p>GOL/MAF institutionalizes the conclusions as policy or program in a timely manner.</p> <p><u>Pre-conditions</u></p>